

平塚で味わう カンボジア料理「アプサラ」

平塚市には様々な国の出身の方が住んでおり、各国の料理店もあります。市内で食べられる各国の料理を連載で紹介いたします。

今回は、市内横内にある「アプサラ」というカンボジア料理の店を営む西村オールさんに、カンボジアの食文化について伺いました。西村さんはカンボジアのカンダル州の出身で、30年近く前に難民として来日しその後帰化した方です。

カンボジアでは農業が主産業です。日々の食生活では自給の野菜、穀物を多く食べているようで、今回紹介していた

だいたいの料理は、どれもカンボジアの方が野菜を豊富に食べていることがよくわかるものばかりでした。何とでも生野菜をふんだんにあわせて食べるのが特徴のようです。ヘルシーで美味しく食べられる、本格カンボジア料理の市内唯一のお店です。

西村さんは日本で仕事をしながら、まだ貧しい生活をしている故郷カンボジアの子供たちを生活・教育面で支援する活動を続けているそうです。カンボジアの子供たちに、安心して暮らせる日が一日も早く訪れることを願います。



バンチャウとカレー

◆カレー

ココナッツミルクの入った、甘みと辛みが絶妙な赤いカレーです。豚肉のほか、芋などの野菜がごろごろ入っています。日本のカレーと違うのは、麺かパンにかけて食べることが多いという点です。そうめんのような麺に生野菜をのせ、カレーをかけて食べたり、フランスパンにつけながら食べたりします。

◆バンチャウ

炒めた玉ねぎ、豚肉、えびと生のもやしを、卵と粉を混ぜて薄く焼いた生地に入れて蒸し焼きにした、クレープ巻きのようなものです。これに生野菜(もやし、レタス、香草など)をのせ、赤唐辛子の薬味とピーナッツの粉を好みでつけ、タクタイ(カンボジア語で魚醤のこと)をベースにしたタレで食べます。このタレの調味が味の良し悪しを決めるそうです。作る人により微妙に違う味になるので、カンボジアの方にとっての「おふくろの味」はこのタレなのかもしれません。



西村オールさんと奥様のワンナーさん



かぼちゃのデザート

◆かぼちゃのデザート

種をくりぬいたかぼちゃに卵液を流し込んで蒸した、プリンのようなものです。かぼちゃと一緒に食べます。ちなみに「かぼちゃ」という発音は、語源は「カンボジア」といわれています。

平塚では囲碁が盛んといわれています。でも、まだまだその魅力を知らない方もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。このコーナーでは、囲碁を身近に感じていただけるように、囲碁ってどんなもの?というところからその楽しみ方を易しくお伝えしていきます。

囲碁というゲームの歴史は非常に古く古代中国(晋の時代)が起源といわれています。

囲碁は碁盤と白黒の石さえあればできる、もっと言うと盤と石などなくても、地面に線を書いて白丸と黒丸を書いていけば、手軽に出来てしまいます。また、ルールも白と黒に分かれて対戦し、交互に石を打って相手より大きい陣地を取ったほうが勝ち、という非常に単純なものです。このように道具やルールは単純ではありますが、何千年を経た現在でも、最善の手がどこなのか誰にも分からないという奥深さが、現在でも続いている理由なのだと思います。

コンピューターの世界では10年も前からチェスの世界王者を破り、将棋でも高段の実力があるプログラムがありました。

しかし囲碁では、現在でも強くてもアマチュアの二、三段程度と言われています。その奥深さから、世界中で囲碁という競技が見直され、年々囲碁の愛好者が広がっています。昨年の国際アマ棋戦では70カ国もの方が参加したということです。

老若男女や棋力を問わず、誰とでも楽しめるのも囲碁の大きな魅力です。実際、囲碁の大会に行くとき子供や女性が何人も参加している姿をよく見かけます。古くは紫式部や清少納言なども碁を嗜んだと言われていました。また、ハンデを非常に細かく設定できるので棋力を問わず皆が楽しめます。ハンデ次第では碁を覚えてた人でもプロ相手に勝つことも出来るわけです。

囲碁では、詰碁のような論理的な左脳と、大局的に盤面を俯瞰する感覚的な右脳を同時に使うので、脳の老化防止に向いていると言われています。礼儀作法や、自分が劣勢になったときの我慢が必要なことから、忍耐強くなるなどの教育的効果もあり、韓国では国策で碁の塾を奨励しているそうです。

(財)平塚市文化スポーツまちづくり振興財団 勝山 俊樹

碁の魅力

碁関連トピックス



大蔵市長が特別功労賞受賞

平成22年10月10日(日)の第15回湘南ひらつか碁まつり当日、日本棋院から大蔵市長に「特別功労賞」が贈られました。これは碁普及活動に顕著な業績をあげ、碁文化の高揚に功績が認められた方に贈られる賞で、平成22年3月に新設されたばかりのものです。大蔵市長は記念すべき第1回目の受賞者となりました。

平塚市の子ども碁教室出身者が続々と全国大会へ

8月1、2日に第7回文部科学大臣杯小・中学校団体戦が日本棋院で行われました。平塚市の子ども碁教室の在籍者、出身者が活躍し、平塚市からは浜岳中学校と平塚中等教育学校の2校が出場しました。